

2022年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

2021年11月12日

上場会社名 中央ビルト工業株式会社 上場取引所 東
 コード番号 1971 URL <http://www.chuo-build.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 齋藤 健
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役経営統括本部長 (氏名) 松澤 範生 (TEL) 03-3661-9631
 四半期報告書提出予定日 2021年11月12日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2022年3月期第2四半期の業績 (2021年4月1日~2021年9月30日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

| | 売上高 | | 営業利益 | | 経常利益 | | 四半期純利益 | |
|---------------|-----------------|------|----------------------------|---|------|---|--------|---|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % |
| 2022年3月期第2四半期 | 3,860 | △4.7 | 21 | — | 74 | — | 67 | — |
| 2021年3月期第2四半期 | 4,051 | 13.6 | △106 | — | △107 | — | △81 | — |
| | 1株当たり 四半期純利益 | | 潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益 | | | | | |
| | 円 銭 | | 円 銭 | | | | | |
| 2022年3月期第2四半期 | 28.68 | | — | | | | | |
| 2021年3月期第2四半期 | △34.51 | | — | | | | | |

(2) 財政状態

| | 総資産 | 純資産 | 自己資本比率 |
|---------------|-------|-------|--------|
| | 百万円 | 百万円 | % |
| 2022年3月期第2四半期 | 8,588 | 2,526 | 29.4 |
| 2021年3月期 | 7,723 | 2,458 | 31.8 |

(参考) 自己資本 2022年3月期第2四半期 2,526百万円 2021年3月期 2,458百万円

2. 配当の状況

| | 年間配当金 | | | | |
|--------------|--------|--------|--------|------|------|
| | 第1四半期末 | 第2四半期末 | 第3四半期末 | 期末 | 合計 |
| | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 |
| 2021年3月期 | — | 0.00 | — | 0.00 | 0.00 |
| 2022年3月期 | — | 0.00 | | | |
| 2022年3月期(予想) | | | — | — | — |

(注) 1. 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

2. 2022年3月期の配当予想については未定であります。

3. 2022年3月期の業績予想 (2021年4月1日~2022年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

| | 売上高 | | 営業利益 | | 経常利益 | | 当期純利益 | | 1株当たり 当期純利益 |
|----|-------|------|------|---|------|---|-------|---|----------------|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 円 銭 |
| 通期 | 7,782 | △2.1 | 53 | — | 90 | — | 63 | — | 26.79 |

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

- ① 期末発行済株式数（自己株式を含む）
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数（四半期累計）

| | | | |
|------------|------------|------------|------------|
| 2022年3月期2Q | 2,378,740株 | 2021年3月期 | 2,378,740株 |
| 2022年3月期2Q | 27,386株 | 2021年3月期 | 27,166株 |
| 2022年3月期2Q | 2,351,436株 | 2021年3月期2Q | 2,351,695株 |

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項などについては、添付資料2ページ「経営成績に関する説明」を参照。

（金額の表示単位の変更）

当社の四半期財務諸表に掲記される科目その他の事項の金額については、従来、百万円単位で記載しておりましたが、第1四半期会計期間及び第1四半期累計期間より千円単位の記載に変更しております。これにより前会計年度及び前第2四半期累計期間についても比較を容易とするため、千円単位で表示しております。

○添付資料の目次

| | |
|--------------------------|---|
| 1. 当四半期決算に関する定性的情報 | 2 |
| (1) 経営成績に関する説明 | 2 |
| (2) 財政状態に関する説明 | 2 |
| (3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明 | 2 |
| 2. 四半期財務諸表及び主な注記 | 3 |
| (1) 四半期貸借対照表 | 3 |
| (2) 四半期損益計算書 | 5 |
| (3) 四半期財務諸表に関する注記事項 | 6 |
| (継続企業の前提に関する注記) | 6 |
| (株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) | 6 |
| (会計方針の変更) | 6 |

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症拡大による政府の緊急事態宣言や自粛要請などにより経済活動が抑制され停滞する中、極めて厳しい状況で推移しました。

当社の主な関連業界である建設及び住宅業界においては、公共投資は底堅く推移しているものの、緊急事態宣言の再発例が繰り返される等の環境下、新規現場の着工延期、一時的な需要の減少など、先行きは不透明で楽観できない状況にあります。

このような状況の中、当社は在庫の適正化や生産体制の見直しを図り、住宅鉄骨部門の製造も堅調に推移しましたが、当第2四半期累計期間の業績は、売上高3,860百万円（前年同四半期比4.7%減）と減収となりました。一方、損益面においては、減損による減価償却費の減少や経費削減の徹底等により、営業利益21百万円（前年同四半期は営業損失106百万円）、加入見直しによる保険解約返戻金等により経常利益74百万円（前年同四半期は経常損失107百万円）、四半期純利益67百万円（前年同四半期は四半期純損失81百万円）となりました。

なお「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2020年3月31日）等を第1四半期会計期間の期首から適用しております。営業利益、経常利益、四半期純利益に与える影響はございません。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

当社は、これまでセグメント区分を「仮設機材販売」「仮設機材賃貸」「住宅鉄骨事業」としておりましたが、第1四半期会計期間より事業管理区分の見直しを行い、従来の「仮設機材販売」「仮設機材賃貸」の区分を「仮設機材事業」に統合しております。

なお、前第2四半期累計期間に開示している金額は、変更後の区分方法により組替えたものを記載しております。

(仮設機材事業)

社会インフラ整備等による建設需要は持続しているものの、景気の先行きが不透明な状況の中、仮設機材リース業者の購買意欲は未だ低調であり、売上高は1,243百万円（前年同四半期比7.6%減）と減収となりました。一方、セグメント損失は貸与資産の減価償却費の減少やコスト削減効果により113百万円（前年同四半期はセグメント損失228百万円）となりました。

(住宅鉄骨事業)

住宅鉄骨用部材の生産量は前年同四半期に需要が集中したことの反動で、売上高は2,617百万円（前年同四半期比3.3%減）と減収となりました。一方、損益面では、工場のコストダウン努力により工場原価が改善し、セグメント利益は141百万円（前年同四半期比12.7%増）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第2四半期末の総資産は8,588百万円となり、前事業年度末に比べ864百万円増加しました。流動資産が3,961百万円（前事業年度末比916百万円増）、固定資産は4,626百万円（前事業年度末比51百万円減）となりました。総資産の主な増加要因は、現金及び預金が652百万円、受取手形及び売掛金が159百万円増加したことなどによるものであります。

(負債)

負債合計は6,062百万円となり、前事業年度末に比べ797百万円増加しました。流動負債が3,718百万円（前事業年度末比38百万円増）、固定負債が2,343百万円（前事業年度末比758百万円増）となりました。負債の主な増加要因は、1年以内返済予定の長期借入金が102百万円減少した一方、長期借入金751百万円、支払手形が87百万円増加したことなどによるものであります。

(純資産)

純資産合計は利益剰余金が67百万円増加したことなどにより2,526百万円（前事業年度末比67百万円増）となりました。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

業績予想につきましては、2021年5月17日の決算短信で公表しました予想に変更はありません。今後、業績予想の修正が生じる場合は速やかにお知らせいたします。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

| | 前事業年度 (2021年3月31日) | 当第2四半期会計期間 (2021年9月30日) |
|---------------|-----------------------|----------------------------|
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | | |
| 現金及び預金 | 1,024,502 | 1,676,972 |
| 受取手形及び売掛金 | 1,184,935 | 1,344,593 |
| 棚卸資産 | 807,796 | 912,718 |
| 前払費用 | 13,627 | 13,851 |
| 未収入金 | 10,688 | 10,111 |
| その他 | 5,282 | 4,640 |
| 貸倒引当金 | △1,261 | △1,210 |
| 流動資産合計 | 3,045,572 | 3,961,676 |
| 固定資産 | | |
| 有形固定資産 | | |
| 建物 | 1,963,811 | 1,970,616 |
| 減価償却累計額 | △1,625,659 | △1,642,326 |
| 建物(純額) | 338,151 | 328,290 |
| 構築物 | 658,576 | 742,876 |
| 減価償却累計額 | △504,526 | △517,419 |
| 構築物(純額) | 154,050 | 225,456 |
| 機械及び装置 | 789,326 | 786,562 |
| 減価償却累計額 | △700,267 | △692,581 |
| 機械及び装置(純額) | 89,059 | 93,980 |
| 貸与資産 | 7,374,567 | 7,300,297 |
| 減価償却累計額 | △6,850,905 | △6,807,688 |
| 貸与資産(純額) | 523,662 | 492,609 |
| 車両運搬具 | 58,344 | 62,294 |
| 減価償却累計額 | △54,814 | △56,500 |
| 車両運搬具(純額) | 3,530 | 5,793 |
| 工具、器具及び備品 | 261,597 | 259,762 |
| 減価償却累計額 | △216,434 | △220,692 |
| 工具、器具及び備品(純額) | 45,162 | 39,069 |
| 土地 | 3,070,361 | 3,070,361 |
| リース資産 | 104,306 | 100,436 |
| 減価償却累計額 | △34,840 | △38,107 |
| リース資産(純額) | 69,465 | 62,329 |
| 建設仮勘定 | 42,350 | — |
| 有形固定資産合計 | 4,335,794 | 4,317,890 |
| 無形固定資産 | 35,512 | 59,984 |
| 投資その他の資産 | | |
| 投資有価証券 | 200 | 200 |
| 繰延税金資産 | 28,468 | 28,468 |
| 差入保証金 | 209,963 | 209,813 |
| その他 | 71,562 | 13,880 |
| 貸倒引当金 | △3,600 | △3,600 |
| 投資その他の資産合計 | 306,593 | 248,761 |
| 固定資産合計 | 4,677,900 | 4,626,636 |
| 資産合計 | 7,723,473 | 8,588,313 |

(単位：千円)

| | 前事業年度 (2021年3月31日) | 当第2四半期会計期間 (2021年9月30日) |
|---------------|-----------------------|----------------------------|
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | | |
| 支払手形 | 480,323 | 567,700 |
| 買掛金 | 811,503 | 887,345 |
| 短期借入金 | 1,500,000 | 1,550,000 |
| 1年内返済予定の長期借入金 | 575,628 | 472,906 |
| 未払法人税等 | 7,505 | 13,970 |
| 賞与引当金 | 18,645 | 19,652 |
| 役員賞与引当金 | 1,810 | — |
| 修繕引当金 | 14,353 | 1,057 |
| 資産除去債務 | 5,318 | — |
| その他 | 264,952 | 206,291 |
| 流動負債合計 | 3,680,041 | 3,718,924 |
| 固定負債 | | |
| 長期借入金 | 1,349,730 | 2,101,018 |
| 退職給付引当金 | 130,127 | 141,143 |
| 長期未払金 | 1,098 | 1,098 |
| その他 | 103,647 | 100,005 |
| 固定負債合計 | 1,584,602 | 2,343,264 |
| 負債合計 | 5,264,643 | 6,062,189 |
| 純資産の部 | | |
| 株主資本 | | |
| 資本金 | 508,000 | 508,000 |
| 資本剰余金 | 758,543 | 758,543 |
| 利益剰余金 | 1,219,930 | 1,287,361 |
| 自己株式 | △27,644 | △27,781 |
| 株主資本合計 | 2,458,829 | 2,526,124 |
| 純資産合計 | 2,458,829 | 2,526,124 |
| 負債純資産合計 | 7,723,473 | 8,588,313 |

(2) 四半期損益計算書

第2四半期累計期間

(単位：千円)

| | 前第2四半期累計期間 (自2020年4月1日 至2020年9月30日) | 当第2四半期累計期間 (自2021年4月1日 至2021年9月30日) |
|-------------------------|---|---|
| 売上高 | 4,051,911 | 3,860,358 |
| 売上原価 | 3,726,633 | 3,484,150 |
| 売上総利益 | 325,278 | 376,208 |
| 販売費及び一般管理費 | 431,957 | 354,958 |
| 営業利益又は営業損失(△) | △106,679 | 21,249 |
| 営業外収益 | | |
| 受取利息及び配当金 | 2 | 3 |
| 保険解約返戻金 | — | 56,083 |
| 受取地代家賃 | 2,329 | 2,934 |
| 雑収入 | 3,760 | 2,673 |
| 営業外収益合計 | 6,091 | 61,694 |
| 営業外費用 | | |
| 支払利息 | 6,509 | 7,672 |
| 雑支出 | 839 | 1,114 |
| 営業外費用合計 | 7,348 | 8,787 |
| 経常利益又は経常損失(△) | △107,936 | 74,157 |
| 税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失(△) | △107,936 | 74,157 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 5,514 | 6,726 |
| 法人税等調整額 | △32,305 | — |
| 法人税等合計 | △26,790 | 6,726 |
| 四半期純利益又は四半期純損失(△) | △81,145 | 67,430 |

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を第1四半期会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することとしております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、第1四半期会計期間の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しております。

この結果、当第2四半期累計期間の損益に与える影響はありません。また、利益剰余金の当期首残高への影響もありません。